

# *Classica Grammatica Latina* 和訳問題解答

著 LED (2014 年度入学理科一類七組)

2015 年某月某日

## 前書き・注意

このシケプリもどきは、井上教官による古典語初級(ラテン語)で用いられている教科書、「Classica Grammatica Latina」の章末練習問題の**和訳問題のみの**解答集です。

夏学期分だけなので**12課までしかありません**。残りは冬学期分としてやる気が出たら作ります。

筆者が履修したときはラテン語作文は授業でも試験でも扱わなかったので、ここでは取り上げていません。

また、逐語訳と意識の中間の訳し方なので気を付けてください。

筆者の一年次に履修した内容の復習と L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X の練習を目的に作られたものなので、色々至らない点も多かろうと思われます。そもそも筆者は工学部志望の理系です。この授業以上の知識など殆ど持ち合わせておりません。**この解答おかしくね、等と思ったそこのあなた、きっとあなたの方が正しいでしょう。**

このプリントは授業中聞き逃したり欠席した回があってよく分からない箇所をフォローするためのものです。授業の予習をサボりたくて読んでも、和訳力はほぼ身に付かないでしょう。筆者が履修していた時は、教科書ノート持ち込み有の初見和訳問題十問が期末試験でした。自力で訳す力を付けなければ単位は来ません。

それでもこの自己満足の塊みたいなシケプリもどきが誰かの役に立てば、そして東大生を一人でも多く語学沼に引きずり込むことができれば幸いです。

## §1

1. 彼らは歌い、そして笑う。
2. 私は書くのではなく読む。
3. 彼らは歌うだけでなく、上手に踊る。
4. 君は読まないし書かない。
5. 彼らは働くか、あるいは遊ぶ。
6. 君は黙っているが泣かない。
7. 誰が歌い、そして笑うのか？
8. 笑ってはならない。

9. 君たちは何故眠らないのか？
10. 君たちはいつ歌うのか？ — 我々は今日は歌わない。  
※ラテン語の現在形は習慣の他に反復や進行、意志等も表すため、文脈的に整合性が取ればその意を含む訳でも構わない。

## §2

1. 詩人は娘に物語を語る。
2. 少女たちは詩人たちの物語を気に入っている。  
※ placeō は英語の interest に似た構文を取る。
3. 詩人は物語で少女たちに喜びを与える。
4. 少女たちは詩人たちを愛し、詩人たちの物語を記憶しなければならない。  
※ memoria tenēre は熟語。
5. 君たちはどこへいくのか？
6. 農夫の娘がここへバラを運ぶ
7. ブリタンニアとスキキリアは島だ。
8. 我思う、故に我在り。  
※例のアレ。母音の長短を区別できると真の教養人っぽさが出るよね。
9. 生きることは戦うこと。  
※主語と補語は逆でも良い。ラテン語の性質上区別が付かない。
10. 祖父はしばしば少年に物語を語る。すると少年はとても喜ぶ。
11. マールクスよ、何故君は本を読まないのだ？  
※動詞が二人称なので「マールクスは」は誤り。
12. 君たちは友人たちに援助を運ぶ。
13. 少女は庭を彫像で飾る。
14. 生徒たちは教師の言葉に喜んで従う。  
※「教師たちは生徒の～」でも文法的には正しい。文法的には。
15. 主人たちを愛しているからか、或は罰を恐れているから、奴隷たちは主人たちの命令に従う。

### §3

1. ローマとウェーローナは有名な都市だ。
2. 歌うのは楽しい。
3. 多くの人がギリシャとローマの詩人を愛している。
4. 詩人は小さなデーロス島と大きなロドス島を訪れる。
5. 海は水夫たちを多くの危険で恐れさせる。
6. 農夫たちの富は大きい。
7. 教師は生徒に美しい本を贈る。
8. 奴隷たちの人生は哀れだ。
9. 我々は川を通り、右の岸から左の岸へ危険無く泳ぐ。
10. 祖父は多くの美しい物語を語れる。
11. 詩人たちは楽しませるか、或は役に立つ。
12. 小犬は机の下に走る。
13. 教師は生徒たちと、ローマの詩人と哲学者たちについての話を読む。
14. 少年たちは壁から下に降りて平野の中に走っていく。
15. 主人は奴隷たちの怠惰のせいで激怒している。
16. 少年たちは小舟で川を渡る。
17. 農夫は自分の娘だけでなく隣人の娘にも果物を与える。
18. 我々の友人は危険を我々から遠ざける。
19. 君たちの援助は我々の役に立つ。
20. 彼にとってそれらの言葉は快い。
21. 君たちの中の誰がアウグストゥスについて語るのだ？
22. 我々は君たちと共に神々に懇願する。

## §4

1. 私の友人たちは農夫たちの勤勉さを褒めるだろう。
2. 奴隷たちの人生は惨めだった。
3. 我々はしばしば君たちに質問した。君たちはいつも我々に答えた。
4. 主人は野生の馬を飼い慣らせるだろう。
5. 明日再び学校へ行け、そして多くを学べ。  
※単純未来でも可。
6. 君たちの援助は我々の役に立つだろう。
7. ローマ人たちには多くの神々、そして女神たちがいた。彼らは神々の神殿を金と銀で飾っていた。
8. 奴隷たちは多くの労働と苦痛を耐えていた。
9. 正義は判事の最高の義務である。
10. 諺がある。「人間は人間にとって狼である」しかし我々は人の中に人を見出すよう努めるだろう。  
※「狼は～人間である」とも訳すことは可能。  
※どうでもいいけどあっちのホモは古典ギリシャ語由来。
11. 船乗りたちは遠くから高い塔を見ていた。塔の中では炎がいくつも燃えていた。
12. 古い時代、人々は深い海を恐れ海岸のそばを航行していた。
13. 父母の気遣いは大きい。
14. 敵たちは市民たちの大虐殺を行う。
15. 犬が口で骨を持っている。
16. アテーナイの街では芸術と文学が栄え、ローマの街では法と規則の学問が栄えていた。  
※日本語ではアテネだが古典ギリシャ語ではアテーナイ。現代口語ではアシナ。文語ではアシナイ。アセンズ？ゲルマン人の言葉は知らんな。

## §5

1. かつて富を持っていながら今持っていないのは辛いものだ。  
※「かつて富を持っていながら今持っていない」ことが一まとまりなので、acerbum と中性単数で表される。「かつて富を持っていた」ことと「今富を持っていない」ことの両方が辛い場合、”～ acerba sunt.” となる。
2. 父は小さな息子の両肩を引いて庭へ連れて行った。

3. 勝利した兵士たちは捕虜たちを奴隷として売った。捕虜たちは奴隷として売られた。  
※ sub corōnā は熟語。
4. 私はブリタンニア人たちの制度、風習、法律を知っている。
5. 私は君たちのことをずっと覚えているだろう。
6. 君が友人たちを嘲笑することをやめなかったことについて、私は君を叱っている。
7. ギリシャ人たちはトロイアの都市に侵入するや否や建物に放火し男たちを殺した。
8. 以前一度も行ったことのなかった場所に、今日我々は言ってきた。
9. 私はすぐに長い手紙を書く。
10. 私は急いで向かったが、友人に援助を届けることはできなかった。
11. 少年たちは中央広場へと走った。
12. 水夫たちはパロス島に近づいていた。彼らの誰も以前にそれほど大きな塔を見たことがなかった。
13. 明日君たちはどこへ行くのか？ — 我々は明日アテーナイへ行く。
14. 君たちの叔父はどこに住んでいるのだ？ — 彼はメディオーラーヌムに住んでいる。
15. 君たちはどこから戻ったのか？ — 我々はネアーポリスから戻った。  
※ Neāpolī は奪格。
16. 父親は家に留まっていない。彼は家を出て息子を迎えに行った。すぐに息子と共に家に戻るだろう。
17. 富豪が貧乏人に古い衣服を与える。
18. 全ての動物は死ぬ運命にある。
19. ギリシャは勇敢な船乗りたちと思慮深い商人たちの故郷だった。  
※ fuit ではないので今どうなってるかは不明。この時代の人たちはまさかギリシャが借金まみゲフンゲフン
20. 激しい苦痛はたいいてい短い。

## §6

1. マールクスはルーキウスと同じ仕事に耐える。  
※-erat だからって過去完了とは限らんです。
2. 我々はこの本の物語は気に入っているが、あの本のは気に入らない。
3. 自分と同じように隣人を愛せ。  
※単純未来にも訳せるが、聖書かなんかの引用だった気がするのでこっちの方が良いと思われる。

4. 先生自ら私を助けてくれるだろう。
5. そんな忠告に我々は従わないだろう。
6. この馬は速いと同時に美しい。
7. ハンニバルとスキープオーは有名だ。後者はローマ人で前者はカルタゴ人だ。
8. 兵士たちはまさに城壁の下に立っている。
9. お前の傲慢な言葉に、私は今もこれからも怯えはしない。
10. ローマ人たちによってメルクリウスは神々の使者と呼ばれていた。  
※「神々の使者はメルクリウスと」でも可と思われる。
11. 多くのローマ人たちの子供たちはギリシャ人の奴隷たちに教育されていた。  
※ liber と līber、ēducō と ēdūcō 等、母音の長短に注意。
12. いつ中央広場へ行くのだ？  
※非人称受動は「～という行為が為される」という風に解釈すると分かりやすいかも。
13. スィキリアは全方位を海に囲まれている。
14. 戦いでは多くの人が捕えられ多くの人が殺される。
15. 冬には牛たちは牛小屋へ連れて行かれる。
16. ガイユスは君たちに、憤ましいと思われている。
17. 詩の朗読で悩みは減らされるだろう。  
※第三変化動詞は未来が分かりにくいので注意。第二変化動詞の現在と誤解しないように。
18. 誠実な友人たちから信頼されるのはたのしい。  
※第三変化動詞のみ受動態の不定形に r が無いので注意。パッと見マジで分かりにくい。
19. オリュンピア競技会の勝者たちはオリーブの枝で飾られた。多くのギリシャの若者たちがその褒美を望んでいた。
20. 君は決して我々に妬まれることはないだろう。  
※ invidēō は自動詞の場合与格を目的語に取るらしい。

## §7

1. 何をするつもりだ、クウィントゥスよ。 — 友人のマルクスを訪ねるつもりだ。
2. 君は昨日森の中で散歩していたのか？ — 私は森中ではなく、川岸のそばを散歩していた。  
※教科書の説明に思いっきり逆らうが、-ne は必ずしも語頭の語に付くとは限らない。基本的には語頭だが。
3. 君たちにとってローマ人の詩人のどの名前が馴染み深いか？

4. マールクスは戻ったのか否か。
5. アレクサンデルは誰の弟子だったのか？
6. 市民たちの不和は国の妨げになるのではないか？
7. 市民たちの不和が国の助けに成り得ようか？
8. 盗賊は衣服の下に持っていたナイフで商人たちを殺した。
9. ダイダロスとイーカロスは故郷へ船で行くのが許されておらず、自分たちのために翼を用意した。  
※有名な神話のアレ。ギリシャ人なのでギリシャ語の読みに合わせたが、人名に関してはそんなに気にしなくても大丈夫。  
※非制限用法っぽく訳したが、「許されていなかったダイダロスと～」でも間違いではないと思われる。
10. 団結あるところ常に勝利あり。  
※なんでこの章にあるのか謎。関係副詞ってことか？
11. 知恵の優れる者が国家の役に立つだろう。
12. 私は貴方の命じることなら何でもやろう。  
※ imperō が未来完了なのは、命令された後に「私」が遂行するから。
13. 私は今の君のようであった。君もいずれ今の私になる。  
※人称を正確に捉えないと妙な訳になるので注意。  
※墓に刻まれる碑文の一つ。"Tū fuī, egō eris."「私はかつて君だった。君も私になる。」とも。  
死者が生者に語り掛ける形だが、英語の RIP と同じ冥福を祈る表現もある。"Sit tibi terra levis."「君にとって土の軽からんことを。」
14. 黙る者は同意すると見なされる。
15. 悪人を大目に見る者によって、善人は害される。  
※二つとも自動詞の非人称受動構文なので動詞は三人称単数。
16. ライン河の向こうに住んでいたゲルマン人たちは、当時ガリアにいたローマ人たちに大いに恐れられていた。
17. 順調な場合だけでなく逆境の中でも、我々は友人たちのために忠誠を守る。
18. 友人達に信頼を置く者は、時に希望を裏切られる。  
※ frūstrā は英語の in vain 的な訳し方が合う。
19. 祭日の一続きをローマ人たちは休日と呼んでいた。
20. 少年たちは戦功について喜んで聞く。
21. 港の中では潮騒は大きい。高い波は水夫たちの到着を妨げる。
22. 勝者は国家の全ての慣例を変えた。

23. マールクス・ミヌキウス・ルーフスは栄光において、クウィントゥス・ファビウス・マクシムスに比肩しなかった。

※人名は略記されていても格変化はしているので読みに注意。

24. 第二次ポエニ戦争の時、ルーキウス・アエミリウス・パウッルスとガイウス・テレンティウス・ワッローが執政官だった。

※ ae はアイの方が近かったとされるが、アエと書かれる方が多いっぽい。

## §8

1. カエサルは包囲をやめることを強いられた。
2. 多くの人が演劇祭を見るため劇場に行った。
3. ギリシャ人たちに攻撃されたトロイアの記憶を詩人ホメーロスは我々に残した。
4. 大抵のことは言うのは簡単だが行うのは難しい。
5. キケローは執政官に選ばれた。
6. 嫉妬が君たちによって押さえつけられるより前に君たちが幸せになることはないだろう。
7. 友人が大きな危機から救われた少年は、神々に感謝していた。  
※ deus は複数の活用形が荒ぶってるので覚えておいた方が良い。
8. マールクスよ、詩人ウェルギリウスの本を読め。
9. 大きすぎる物は避けよ。小さな物に喜ぶことを忘れるな。  
※語頭に Eum が省略されていると考ええると良い。
10. 母の病について兄弟に、手紙を書くか使者を送れ。
11. この手紙を君の父に届けろ。
12. 正しいことを行い本当のことを述べよ。
13. 黄金の時代、世界の住人達は幸せに暮らしていた。  
※ギリシャ神話のクロノス治世下のことかと思われる。
14. ソローンは商人時代に多くの地を知っていた。  
※ cognōverat をどう処理したものか…。完了で「知っている」なので「知っていた」としたが、授業では「知った」とされた気がする。
15. 弟子たちは全員無傷で川を泳ぎ渡った。
16. マールクスよ、君は書くのが上手い。それに対してルーキウスよ、君は下手だ。  
※-ius 系は呼格が<sup>ī</sup>となる。
17. 奴隷たちはしばしば主人に残酷に罰せられていた。



18. カエサルは最初にローマ軍をブリタンニアへ渡した。  
※ *primus* が謎。授業では「初めて」とされた。
19. 使者たちは悲しみながらやって来て、喜んで去った。

## §9

1. ローマの街では剣闘士の競技会がしばしば行われていた。
2. 同じものを欲し同じものを拒むのが友情だ。
3. 民衆の意見を軽んじるな。
4. 青銅から多くの工芸品が作られる。
5. 人は悪い。不正に耐えるより、それをもたらすことを好むからだ。
6. 我々が欲するものを我々は喜んで信じる。  
※関係節内で *volō* 以降の本動詞が省略される場合もあるが、この場合は *crēdō* が目的語に *quae* を取れないので、省略は起きていない。
7. カトーは善人だと思われるよりも善人であることを望んでいた。
8. 君は私に小さな本を見せたいのか？  
※後で出てくるが、*ostendere* の主語が「私」である場合与格 *mihi* ではなく対格 *mē* が使われる。
9. 偉大な物については、望んだということだけで十分だ。  
※ *et* は英語の *also* に近い意味も持つ。「(成し遂げたならば当然十分だが) 望んだのでも十分だ」等と考えると良い。
10. 彼は牢から逃げることを望まず、喜んで死に向かった。  
※後で何回か例文に出てくるソークラテースおじさん。
11. コリントスの都市の住人達はギリシャの他の都市の住人達より裕福だった。
12. 黄金の時代、人々はその後よりも幸福に暮らした。  
※クロノスがゼウスに支配権を奪われると人類の暮らしは急激に厳しくなっていったそう。
13. 古代の街の中ではアテナイとローマが最も有名だった。
14. 多くの男たちが、とても低い家柄に生まれながら、最高の栄誉へ到達した。
15. ローマ人たちはアルプスよりこちら側の上部イタリアにあったガリア人たちの土地をガッリア・キサルピーナ、或は内ガリアと呼んでいた。アルプスより向こう側のガリアは外ガリア、或はガッリア・トランスサルピーナとよばれていた。  
※この二つのガリアについては色々な呼び方があるので、正直どう訳しても良い。  
※理系なら *cis-alpina* と *trans-alpina* の対にティンと来るんじゃないだろうか。

16. 私は姉妹に母の病について知らせる。  
※ certīōrem faciō は熟語。
17. カエサルは自身の軍隊を近くの丘へ連れて行った。彼は丘の中腹に三重の隊列を配置し、頂上に最近徴収した二隊を配置した。
18. カエサルは夜明けに陣営の前に隊列を配置した。  
※ primā lūce は熟語。
19. なぜ鉄は金や銀より人間に必要とされるのか？
20. 三百人以上の敵が戦いの少し前に捕えられた。  
※何やっとなねん…

## §10

1. ガリアの諸部族は、カエサルの到来以前はほぼ毎年互いに戦うのが常だった。
2. もっとはっきりした声で話せ。  
※一部の教官に行ってやりたくなるラテン語。
3. 我々が享受する人生は短い。
4. 悪い人たちを友人として扱うな。
5. 賢明に生きた者は、平静な心で死ぬだろう。
6. 森の中に見捨てられた家があった。その場所へ陰謀者たちが捕虜たちを連れて行った。
7. イーカロス父に注意されたが、太陽に近づきすぎた。
8. 兵士たちの武勇は指導者の計画にかかっている。  
※ ducis は cōnsiliō にかかる。ラテン語でも流石に名詞は前置詞の後だが、それを修飾する語はたまに前にぶっ飛んで来る。
9. 暴君は故郷を圧迫している。
10. 体の力において人間を超える動物の数は多い。  
※色々入り乱れて文型が非常に取りにくい。性数格の一致や動詞の自他をしっかりと確認する必要がある。
11. 春が近づいていたので、ハンニバルは軍勢を冬の宿営から引き出した。
12. 敵の接近が報告されたので、ハンニバルは陣営を引き払った。  
※ nūntiō は報告の内容を対格に取るので、ここでは adventus と絶対的奪格を構成している。
13. キケローが執政官の時、カティリーナの陰謀が暴かれた。  
※受動文の行為者が人間の時は ā + 奪格で表すので、「執政官のキケローによって」は誤り。キケローは人外ではなかったはず。

14. カエサルは自身の部下全員無傷でクイントゥス・キケローの陣営に到着した。
15. 法務官は、カティリーナと共に国家を圧迫しようとしていたケテグスの家から非常に多くの数の短剣と長剣を運び出した。  
※ maximum は絶対的最上級。
16. トロイヤが攻め落とされた十年後、オデュッセウスは故郷に到着した。
17. カエサルは兵士たちを仕事へ駆り立て、都市を防柵で囲い始めた。
18. 倒された木は倒れ、倒れながら倒している人を倒した。  
※恐らく早口言葉なので言い回しが妙。
19. 彼は誰の助けも無しにこれを完成させた。
20. ガイウス・スルピキオスとガイウス・リキニウスが執政官だった時、疫病があった。

## §11

1. 祖父は少女たちが祭壇を飾るのを見ていた。
2. 君たちの友人が危険な状態にあるのを我々は悲しむ。君たちが我々のもとにいることを我々は喜ぶ。
3. 兄は、隣人が彼にたくさんの果物を贈ったと言った。
4. 私は君に旅に出てもらいたい。
5. ガリア人たちは非常に強かったと考えられている。ガリア人たちが非常に強かったことが伝えられた。  
※筆者が受講していた時は「伝えられている」と言われた。trāditum を trāditur と間違えた？
6. カエサルは兵士たちが橋を作るよう命じた。カエサルは橋が作られるよう命じた。兵士たちは橋を作るよう命じられた。橋が作られるよう命じられた。  
※英語のクジラ構文並みのトートロジー。  
※使役文などでは対格名詞が二つ出てくるのでそれぞれがどの語と関わるのかに注意。  
※混同することはないと思うが、iussī は完了形の一つであり、また完了受動分詞形の一つなので注意。
7. 暴君に陰謀が用意されたことが伝えられた。
8. ハンニバルはローマ人たちが彼によって打ち破られることを望んでいた。ローマ人たちは自分たちが彼によって打ち破られるだろうとは思っていなかった。
9. その間にユグルタは非常に慎重に準備し、急いで軍を招集した。
10. 畑を大切にすることはどういうことだ？ — よく耕すことだ。
11. アリオウィストゥスは自身の破滅無しに彼と戦った者がいなかったことを自慢した。  
※ sēcum と suā で指している人が異なる。

12. 母親は娘がすぐに彼女のもとに来るだろうと考えた。
13. 我々の街には 173,858 人の市民が住んでいる。
14. ガイウス・ユリウス・カエサルは紀元前 100 年に生まれ、紀元前 44 年に殺された。  
※ a. Chr. n. は ante Christum nātum 「キリスト生誕前」の略。生誕後は post〜。
15. 海は街から 14 マイルほど離れている。
16. ハエドゥイー族は何度もゲルマン人と戦った。  
※ semel atque iterum は熟語。
17. アレクサンドロス大王の死から二年後、彼の亡骸はエジプトに運ばれた。
18. 街が作られた年からローマ人たちは年を数えていた。街が作られたのは紀元前 753 年のことだった。
19.  $4 \times 4 = 16$   $5 \times 8 = 40$
20. ローマでは毎年二人の執政官が選ばれた。  
※ Rōmae は地格。ついでに長音記号が抜けている。

## §12

1. ヘルウェティー族の戦争が終結したので全ガリアの使者たちがカエサルの下にお礼を言いを訪れた。  
※ grātulātum は恐らく目的分詞。  
※ググったらイタリア語訳とドイツ語訳とロシア語訳しか出て来なかった。イタリア語選択で良かったぜ。
2. 逆境の中では、何であれ最も強いものが最も安全である。  
※「安全」と「強い」は逆にも解釈できる。
3. 皆自身を最も気に掛ける。
4. 誰かが幸福であれば他の誰かがその人を妬む。
5. クロイソスは彼自身より幸福な者は誰もいないと言った。
6. 我々の中に罪を犯さない者はいない。我々は人であって神ではない。
7. 君たちのどちらがこれをやったのだ？というのも一方がこれをやったのは明らかなのだ。 — 我々のどちらもやっていない。我々はどちらも無実だ。
8. 敵たちは互いに互いの妨げになっていた。  
※ impedimentō については 13 課。
9. 確かにソークラテースの中に罪の意識は全く無かったが、しかし彼は逃走の機会を一切求めなかった。

10. 間違うのは万人の為すことだが、間違い続けることは愚か者以外の何者の為すことでもない。
11. キケローがある本で自賛を歌ったとある人達が伝えている。  
※ qui は男性主格が単複同形なので動詞で判断。
12. 若干の悪い男たちが国家の基礎を破壊した。
13. ある人が美德と思う物と同じ物を、またある人は愚行と言う。
14. 君は多くの危険を耐えなければならないだろう。
15. 私にはそんなに多くの手紙を書く時間は無い。
16. 敵たちは街を攻め落とすことと川を渡ることについて絶望した。  
※ちょっと意味が分かりにくい。原文では「街を攻め落とし川を渡る希望が潰えた（こと）」  
となっているっぽい。
17. 長旅を終えた両親は我々に会うことを熱望している。
18. 長旅を計画している商人は友人に家の番をしてもらうよう依頼する。
19. 富は良く使われるべきであり、濫用されるべきではない。
20. 耕す技術がローマ人たちに支配の技術より知られなかったことは一度も無い。貴族たちが農耕から戦闘へ、そして故郷の防衛へ呼び出されることも珍しくなかった。  
※「耕す技術は支配の技術と同じくらい知られていた」とも訳せる。
21. 植民都市を作るため三人委員会が選出された。
22. 私はそれを見ることを熱望している。
23. 敵たちに武器を取る時間は与えられない。
24. 子供たちは両親に心配されるべきだ。